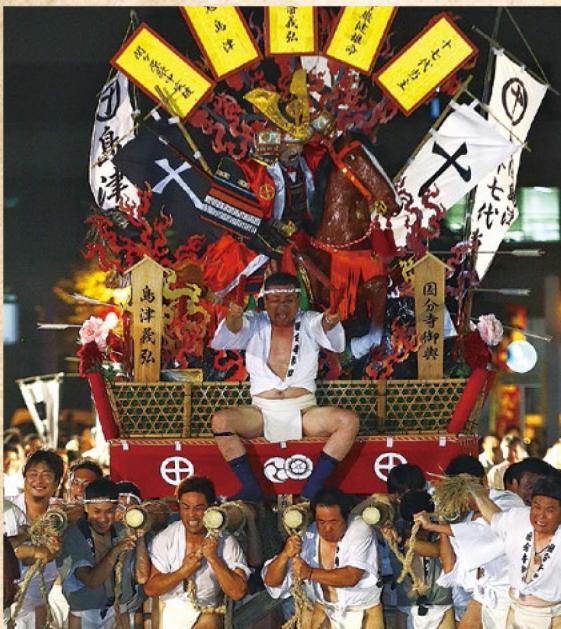


郷土の扉

The gateway to local history



国分夏祭りの御輿



島津氏の家紋



八坂神社の神紋
(五瓜に唐花)



八坂神社の神紋
(左三つ巴)

今年の国分夏祭りは新型肺炎の影響で中止となりました。

いつの時代も、人々は疫病をどうにか抑えようと苦心してきました。昔から残っている習慣には、先人の願いが込められています。

(文責) 坂元

市内の神社を訪れたとき、地元の人から興味深い話を伺いました。昭和30年代前半までは、病気が治るようにお祈りをする人が数多くお参りをしていましたけれど、国民健康保険制度が始まつてからは、ほとんどなくなつたということでした。病院で治療が受けられ、病気が治るようになり、神様に頼る必要がなくなつたためです。

現在でも病気が治ることを神様に祈る人もいるかもしれません、そういう習慣はほとんど見られなくなっています。

夏祭りの原点

国分の市街地で行われる夏祭りでは、毎年立派な御輿を見ることができます。その御輿にいろいろな紋が描かれていることをご存じでしょうか。よく知られている丸に十文字の島津氏の家紋に気付く人は多いでしょうが、他に五瓜に唐花(木

疫病を鎮める祈り

瓜)と左三つ巴の二つの紋があります。これらは八坂神社の神紋です。国分夏祭りは八坂神社が起源であり、本来は祇園祭であつたと考えられます。鹿児島では「おぎおんさあ」とも呼ばれます。

全国の八坂神社は、京都の八坂神社が総本社とされ、もともとは祇園社などと称していましたが、明治時代の神道と仏教を区別させた神仏

分離によって改称されました。祭神はスサノオノミコトで、神仏分離までは牛頭天王として祭られました。祇園という名は、牛頭天王が祇園精舎(釈迦が説法を行つたインドの場所)の守護神であると考えられています。祇園中央にある八坂神社は、もともと府中にあつた祇園社が移されたもので、商売繁盛を祈願する神社

国分中央にある八坂神社は、もともと府中にあつた祇園社が移されました。祇園社の祭神である牛頭天王は、日本では仏教や神道、民間信仰などさまざまの信仰であがめられてきました。

平安時代には病気を流行させる疫病として恐れられましたが、平安時代末期には丁重に祭ると、反対に疫病を鎮めることができると考えられるようになりました。丁重に祭るという行為が祇園祭になり、一部が形を変えて夏祭りとして全国の都市部などに広まっていきました。

疫病が発生するとされていました7月に、祇園祭は開催されます。その影響からか、7月に夏祭りをするところが多いようです。夏祭りは普段、単に季節の風物詩として捉えられがちですが、祇園祭から派生した夏祭りは、疫病を鎮めるために先人が神に祈つたことから始まつたものです。

疫病を司る神です。

祇園祭や夏祭りの目的の一つは、疫病(流行病)を鎮めることです。

祇園社の祭神である牛頭天王は、日本では仏教や神道、民間信仰などさまざまの信仰であがめられてきました。

祇園祭や夏祭りの目的の一つは、疫病(流行病)を鎮めることです。

祇園社の祭神である牛頭天王は、日本では仏教や神道、民間信仰などさまざまの信仰であがめられてきました。